# 釧路湿原自然再生協議会
# ニュースレターNewsLetter

No.21

発行日：平成27年3月27日
編集・発行：釧路湿原自然再生協議会　運営事務局

**平成27年3月16日（月）、第21回釧路湿原自然再生協議会が開催され、「第6期（後期）協議会の収支報告」、「第20回釧路湿原自然再生協議会以降の小委員会開催報告」、「釧路湿原自然再生全体構想の見直しについて」、「協議会運営細則の改定について」及び「今後の予定について」報告が行われました。**

## 【第21回協議会開催概要】

「第21回釧路湿原自然再生協議会」が平成27年3月16日（月）、釧路市観光国際交流センター・1階大ホールで開催され、構成員115名のうち39名＊（個人13名、団体17団体、オブザーバー1団体、関係行政機関8機関）が出席しました。その他一般の方も傍聴されました。

最初に事務局から第７期協議会構成員の公募結果について報告を行い、その後第7期協議会の会長として中村委員、会長代理として高橋委員がそれぞれ推薦され、選任されました。

中村会長の進行のもと、「第6期（後期）協議会の収支報告」、「第20回釧路湿原自然再生協議会以降の小委員会開催報告」、「釧路湿原自然再生全体構想の見直しについて」、「協議会運営細則の改定について」、「今後の予定について」報告及び協議が行われました。

＊複数の立場で出席された方がおられるため、下記合計人数と合致しない場合があります。

## contents

●第6期（後期）協議会の収支報告
●第20回釧路湿原自然再生協議会以降の小委員会開催報告
●釧路湿原自然再生全体構想の見直しについて
●協議会運営細則の改定について
●その他（今後の予定について）

## 【第21回協議会　出席状況】

| | | |
|---|---|---|
| 構成員 | 個人 | １３／５２名 |
| | 団体 | １７／４０団体 |
| | オブザーバー | １／１３団体 |
| | 関係行政機関 | ８／１０機関 |
| 合　計 | | ３９／１１５名 |

# 第20回以降の釧路湿原自然再生協議会・各小委員会の開催報告と、釧路湿原自然再生全体構想見直し案の概要についての報告を行いました。

## 第6期（後期）協議会の収支報告

事務局から第6期（後期）協議会の収支報告を行い、協議会委員相互で収支内容を確認しました。

■第6期（前期）協議会収支報告

| 科　　目 | 金額（円） |
|---|---|
| 第6期（前期）からの繰越額金額（円） | 782,177 |
| 第6期後期（平成25年12月～平成26年11月） | |
| 1. 収入の部 | |
| 寄付金（釧路短期大学、サクサクッキー） | 10,000 |
| 寄付金（ミュージックサロンたじま） | 9,920 |
| 寄付金（釧路町カラオケ同好会） | 10,000 |
| 預金利息（北洋銀行） | 192 |
| 第6期後期収入合計 | 30,112 |
| 2. 支出の部 | |
| 第6期後期支出合計 | 0 |
| 第6期（後期）収支（平成27年3月現在） | 812,289 |
| 第7期（前期）へ の 繰越額（平成27年3月現在） | 812,289 |

## 第20回協議会以降の小委員会開催報告

事務局から第15回湿原再生小委員会、第17回旧川復元小委員会、第14回森林再生小委員会、第23回および第24回再生普及小委員会の開催概要について報告を行った後、内容について協議が行われました。

（●：会長　●：委員　●：事務局）

### 第15回湿原再生小委員会

●幌呂地区湿原再生実施箇所の暗渠排水についての調査結果について教えて欲しい。

●農地整備状況について担当部署に確認したところ、暗渠排水の整備は行っているが詳細な位置等については分からなかった。暗渠排水の整備から年月が経過していることから、排水機能が失われていると聞いている。このため、事業実施に伴い、発見された暗渠については撤去を行っていく予定である。モニタリング等により、埋設されている暗渠排水が地下水位になんらかの影響を与えていると分かった時点で、埋設暗渠の撤去を進めていきたい。

●当時の暗渠排水は、60～90cm下に10m間隔程度で埋設されていると考えられる。暗渠排水の一部はまだ生きていると予想されるので、できれば、図面や現地で確認を行い、掘削前に暗渠排水をつぶしてから表土の剥ぎ取り等を行うことが良いと思うので提案したい。

●古い事業であり、図面等が存在していない。このため、事業実施に伴い発見された暗渠については撤去を行うとともに、モニタリングにより地下水位の変動がみられた場合には、順応的管理により対応していきたい。

●できる範囲で対応をお願いしたい。

●40cm切下げが適していると意見があったとあるが、実際想定していたより水位が上がらなかった理由について分かっていたら教えて欲しい。

●オオアワダチソウは地下水位がある程度高くても侵入してくることが分かった。また、本事業は冬期に施工している。施工箇所が泥炭のため、掘削後に荷重が無くなることで地盤が浮き上がることが判明した。施工時の気温により掘削後の地盤高が高くなることがオオアワダチソウ再侵入の一番の原因だと考えている。

●オオアワダチソウが再生するみたいな書き方になっているので、記載を工夫した方が良い。予定していたよりも地下水位を高くしないとオオアワダチソウが侵入すると考える。

**委員からの主な意見**

**◆幌呂地区湿原再生について**

○現地状況を確認した結果、40cmの切り下げが適していると考える。

○オオアワダチソウの侵入・生育プロセスは複雑なため、モニタリングを継続し順応的管理を実施していくこと。必要に応じて再度切り下げを行うことも検討するべきである。

○幌呂地区湿原再生実施箇所には、過去に排水暗渠が埋設されている。これら暗渠の取り扱いについて今後検討してほしい。

17

### 第17回旧川復元小委員会

●イトウがいたということを外部にきちんと宣伝しているのか。

●小委員会開催時に3社ほど報道機関が来ており、イトウが確認されたという記事を新聞に載せていただいている。

●そのような情報については、メーリングリスト等で提供をお願いしたい。

●了解した。

●イトウが見つかったことに私も驚いている。環境が落ち着き、イトウが住みやすい環境が出来たということで、良い印象を持っている。

●このような情報が公開されることで、釣り人に関して心配がある。猿払のようにキャッチ&リリースを推奨して、釣り人を排除しないで環境を保全しているところもあるので、地域の中で自らルールができれば良いと思う。

●ヌマオロ川の実施計画等、今後の予定について教えて欲しい。

●来年度、詳細な調査・検討を進め、次回の旧川復元小委員会に実施計画の素案を提出出来れば良いと考えている。

●直線河道の流量を左右岸の旧川に分担させて流下させるのか。

●分担させるのではなく、左右岸の旧川を繋げてS字型で旧川を復元することを考えている。

●旧川復元と残土盛土の撤去を実施することで、ハンノキ群落を減少させるとともに、湿原流入部ではん濫が多発し、湿原中心部への土砂流出の減少が見込まれると記載があるが、どのへんではん濫が多発するのか教えて欲しい。

●旧川に接続するSP6200付近ではん濫が多発すると想定している。

●次回までにはん濫エリアがわかるような資料を用意して欲しい。

●現在は、直線河道の下流で土砂がはん濫している。旧川復元を実施することで、旧川復元区間全域ではん濫が発生し、下流への土砂流出が軽減されるという説明だと思われる。

●現地を確認してきたが、旧川のほうが直線河道より低いことから、はん濫というより土砂が下流に流れると印象を受けた。

●旧川の方が低い？

●ご指摘の通り、旧川の方が直線河道より低い状況にある。恐らく直線河道は土砂堆積により河床が高くなったと想定される。直線部と旧川の接続部分等については今後、検討を行っていく予定である。

●茅沼と同様、直線河道は埋め戻す予定か。

●埋め戻すことを考えている。

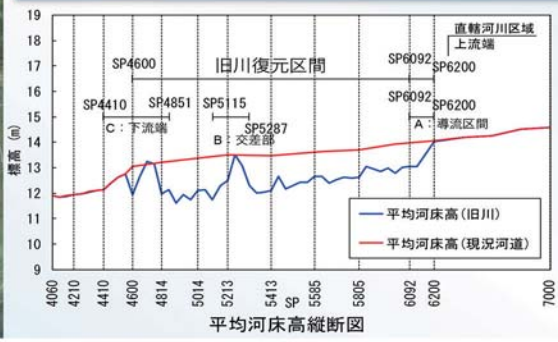
# 2）ヌマオロ川における調査検討結果について

## 2-7.旧川復元平面形（案）

［方針］空中写真や地盤標高図などの資料及び専門家の意見を踏まえ、次の箇所で接続することを検討する
A：上流側はSP6200付近で右岸側の旧川に接続
B：中央部はSP5200付近で左右岸の旧川を接続
C：下流端は旧川の線形で自然蛇行河道へ接続

［目標］期待される自然再生効果が大きく、かつ、上流農地への影響が最小となる旧川復元河道

［検討］排水路合流点での水位上昇を抑える現河道と旧川との接続




58

## 第14回森林再生小委員会

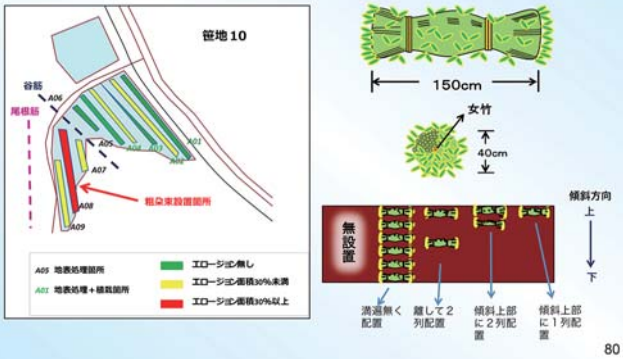
●エロージョンの発生は、今後、落ち着いて来ると思われ、対策を施すのは過剰投資との意見があったようだが、どういった理由でそのような意見がでたのか教えて頂きたい。
●現地の様子から、土壌が下に流れているのが見られなかったことから、今後落ち着くと考えている。
●定量的な調査は実施しているのか。
●定量的な調査は実施しておらず、観察のみとなっている。
●今後、定量的な調査も視野に入れて頂けたらと思う。
●私も現地を確認しているが、極めて狭い範囲でのクリープ的な動きのみであることから、落ち着いてくると思われる。

## 第23回、第24回再生普及小委員会

質疑はありませんでした。

## 2）雷別地区自然再生事業について

3　エロージョン対策の試験的実施（笹地１０）




80

## 2）雷別地区自然再生事業について

Ⅱ　各委員からの意見・提案（現地視察を含む。）

１　コンテナ苗や山引き苗の植栽地にて
・１メートル以上の苗木をきちんと植えないと枯れる。
・山引き苗は、引くのではなく、スコップで掘り取るべき。その際、
　ハルニレは土壌が凍っている時に根粒菌を傷めずに植えるべき。

２　エロージョンの発生について
・重要なのはシラルトロ湖に土壌が流れていくこと。この程度の面積
　で浸食を受けても下流に流れない。今後、落ち着いてくるものと思
　われる。
・土壌を掘り起こした所を何らかの工法で対策を施すのは過剰投資。

83

## 釧路湿原自然再生全体構想の見直しについて

事務局から釧路湿原自然再生全体構想の見直しについて説明を行った後、内容について協議が行われました。

（●：会長　●：委員　●：事務局）

●今回、大まかな方向性については決定したいと考えているが、細かい点等はいつまでに決定する必要があるのか。

●本日、大まかな点について了承を頂ければと考えている。細かい点については、委員長預かりとして事務局と調整を行い、最後に全体構想として取りまとめることを考えている。

●次の全体構想の中で、湿原の再生事業を受けて地域づくりに反映させていくというテーマを取り上げたことは、新しいステップに入ったと考えてよいと思う。

●細かい点でお気づきの点があったら事務局に意見をお寄せ頂き、事務局と私で相談しながら、更に良い全体構想を作っていきたいと考えている。

●最近、生態系サービスとよく言われるが、多様性保全や釧路にしかいない動植物を保全していくとともに、もう少し地域との結びつきをつけていくべきだというのがワーキンググループ全体での意見。その端緒として、我々が行っている再生事業というのは、暮らしと結びついているということをなんらかの形で伝えていきたいというのが、この改良の骨子である。

※【生態系サービス】　ー釧路湿原が持つ価値ー　について

近年、人間が自然から受ける恩恵を「生態系サービス」と呼び、自然の多様な価値の評価が試みられています。

釧路湿原は、

- 洪水時の遊水地として被害リスクを低減する働き
- 富栄養化の原因物質である窒素、リンを低減する能力
- 鉄分の供給による沿岸海域の生態系を育む働き
- 温室効果ガスである二酸化炭素を吸収し、炭素を貯留する働き
- 野生動植物への生息・生育環境の提供
- 観光への貢献

などの機能を有しており、社会に大きな恩恵をもたらしています。

釧路湿原は、流水量をコントロールして、下流の釧路市や釧路町を洪水から守る遊水地としての働きがあります。年間の二酸化炭素吸収量は約4万5000トン、炭素貯留量は年間約1130万トンであり、1年間に窒素・リンを低減する能力は約195万人分の排出量に相当し、これを下水処理費に換算すると、約858億円/年と評価され、地球温暖化や水域の富栄養化の低減に貢献しています。

また、湿原は森林よりも多くのミネラル分を供給しているとの報告があり、釧路湿原から流出する溶存鉄は、植物プランクトンや海藻類を育み、沿岸域の生態系を豊かにし、漁業に大きく貢献していると考えられます。さらに、天然記念物で日本を代表する鳥類のひとつであるタンチョウをはじめ、イトウ、キタサンショウウオなどの希少な野生動植物に生息・生育環境を提供し、数多くの生物を育んでいます。

観光面においても、これまで実施されたアンケート結果では、釧路市を訪れる観光客の半数近くが釧路湿原に魅力を感じている傾向が見られ、釧路市の観光消費額の211億円に大きく貢献していると考えられます。

以上は釧路湿原が持つ価値の一例で、釧路湿原はその他にも多様な価値を有しています。

このような釧路湿原が持つ多様な価値を守っていくためにも、釧路湿原の環境を維持・保全することは非常に重要です。

## 協議会運営細則の改定について

事務局から釧路湿原全体構想の見直しに伴い、6つの施策から7つの施策に変わることから新たに地域づくり小委員会の設置について提案し、了承されました。

## その他（今後の予定について）

事務局から今後の予定について説明を行いました。

**■資料の公開方法**　委員会で配布された資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。
ホームページアドレス　http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html

**■ご意見募集**　釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局まで御連絡ください。

**釧路湿原自然再生協議会ニュースレター　No.21**

【編集・発行】釧路湿原自然再生協議会　運営事務局
【連　絡　先】TEL(0154)23-1353　FAX(0154)24-6839